

2024

3

MAY

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 79

2▶

乳腺外科紹介

4▶

産婦人科紹介

6▶

麻酔科紹介

9▶

市民公開講座開催  
懇話会のお知らせ

# 立川病院 だより



# 乳腺外科紹介

当院における乳腺外科は一般・消化器外科の一部門として診療を行っており、形成外科やリンパ浮腫外来、遺伝外来と連携して診療を行っています。乳癌は女性の悪性疾患の中で罹患者数1位であり、年間約11万人（浸潤癌＝約9.7万人）の女性が乳癌に罹患します。40歳から乳癌検診が始まりますが、発症年齢のピークは45歳～84歳と幅広く、70歳前後が特に多い傾向があります。患者数は多いのですが10年生存率は約80%であり、甲状腺癌、皮膚癌に次いで予後が良い悪性疾患です。

乳癌の場合、分かりやすく説明するためにできるだけ病状の要約を記載した書類を渡すようにしています。自宅に帰ってから見直しができるようにしています。また安心して治療が受けられるように心掛けています。

## 診療体制について

月曜日～木曜日まで外来診療をしています。外来の一覧は下記の表を御参照ください。

	月	火	水	木	金	土
午前	初診・予約	予約のみ		初診・予約	手術	処方のみ
午後	予約のみ	手術	予約のみ	予約のみ	手術	

## 診療内容について 診療実績

患者数は年々増加傾向にあり、2023年1月～12月の乳癌手術件数は143件であり、他良性疾患に対する手術も実施しています。外来においては抗癌剤治療（術前・術後）、分子標的治療（術前・術後）、ホルモン療法、他も実施しており、基本的に各種ガイドラインに沿った治療計画を立てています。逆にエビデンスの無い治療は導入しない方針としています。患者様が希望していても実施できない治療がありますのでご了解ください。当院での治療方針を示した上で希望する場合にはセカンドオピニオンをお勧めすることがあります。

手術件数	乳癌	良性疾患・他
2023年	143件	19件
2022年	129件	10件
2021年	124件	9件

少数ではありますが形成外科と連携して同時再建も実施しています（条件あり）。また遺伝外来とも連携して遺伝子変異の有無（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）もチェックしています。遺伝子変異が確認できた場合にはカウンセリングも実施しています。

## 抗癌剤治療

術前・術後・転移再発時においては積極的に抗癌剤治療を導入しています。抗癌剤治療で入院することはほとんどなく、ほぼ全ての抗癌剤治療を外来の化学療法室にて実施いたします。通院しながらできるだけ日常生活やお仕事に影響のないように配慮しながら抗癌剤治療を行っています。

## 乳房再建手術について

立川病院では乳房全摘の手術が必要な場合、同時再建の手術も同時に検討しています。しかしながら同時再建を希望した場合には手術まで数ヶ月待ちになる可能性があり、病変の状況によっては同時再建までの期間に状況が変わると予想される患者様には癌の治療を優先し根治手術を先行させて、同時再建ではなく後日の再建手術をお勧めすることがあります。温存手術を目指したけれど、手術中に断端陽性となった場合には全摘になる可能性があります。この場合は再建手術の準備はできません。

## 術前の抗癌剤治療について

乳癌のサイズが大きくて温存手術を希望される場合や、既にリンパ節転移のある場合には術前の抗癌剤治療をお勧めすることがあります。術前の抗癌剤治療をすることで乳房温存手術ができるようになる可能性が上がります（効果が不十分で温存できない場合もあります）。プロトコールは下記のどちらかがほとんどです。

FEC療法4コース後、DTX療法4コース（ルミナルタイプ、トリプルネガティブタイプ）  
EC療法4コース後、HPD療法4コース（HER2タイプ）

## 転院の受け入れについて

立川病院の乳腺外科外来は現在非常に混み合っているため、他院からの転院を受け入れる余裕がありません。転院が必要な場合には連携室経由で受け入れの相談してからの受診をお願いいたします。

## 医師紹介

**服部 裕昭（はっとり ひろあき）**

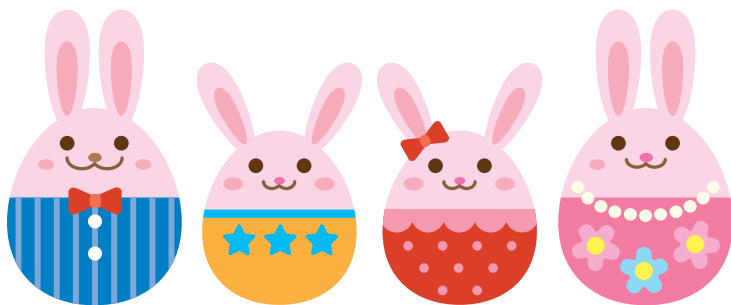
乳腺外科部長

日本外科学会 専門医

日本乳癌学会 乳腺専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

オンコプラスチックサージャリー学会 乳房再建 責任医師



# 産婦人科紹介

婦人科ではどんな紹介が多いですか？



年間100件以上の悪性腫瘍の治療目的、年300件を超える良性腫瘍の手術目的が多いです。他に癌検診を契機に外来経過観察が必要な患者さんもいらっしゃいます。

産科ではどんな紹介が多いですか？



セミオープンも含めて例年500件前後の分娩件数があります。東京都地域母子周産期センターとして小児科や精神神経科と密に協力しています。

どんな手術が増えていますか？



サブスペシャリティ修練施設（悪性腫瘍、内視鏡）であり、良性腫瘍と初期子宮体癌は腹腔鏡やロボット支援手術をするケースが増えています。

多職種カンファレンスをしていますか？



精神神経科・小児科・助産師・NICU看護師・精神科専門看護師・心理士・ソーシャルワーカーが毎月参加して様々なケースについて支援を検討しています。

手術以外にどんな治療が重要ですか？



例えば子宮内膜症では手術前後にGnRHアンタゴニストや黄体ホルモン療法を組み合わせる治療することが多いです。

妊娠では何週くらいから診療できますか？





基本的に32週以降が対応可能で、双胎では34週以降になります。NICUの状況などにより上記週数以降などの場合でも搬送が必要な場合がございます。

婦人科でどんな地域連携をしていますか？



悪性腫瘍の経過の中で在宅医療やホスピスが必要になるので、我々では対応できない範囲であり、非常に助かっています。ありがとうございます。

産科で食事はおいしいですか？



以前パレスホテル立川からスイーツを提供していた経緯があったことを生かして、現在は院内で作るようになっています。

どんな症状に注意が必要ですか？



不正性器出血や腹痛、月経痛や過多月経、月経前の頭痛気分の落ち込みやほてりのぼせ、頻尿や尿漏れと下垂感なども受診の契機になります。

立川病院のセミオープンシステムは？



妊婦健診を35週（帝王切開などでは30週頃）までクリニックで受けて頂き分娩前の健診から出産まで当院で対応するシステムです。時間外対応も含めて密に協力しています。

どんなメンバーがいますか？



内視鏡技術認定医2名、腫瘍専門医3名、臨床遺伝専門医2名、女性ヘルスケア専門医1名、細胞診専門医4名がいます。



今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

# 麻酔科紹介

麻酔科は常勤医9名（1名育休中）と慶應義塾大学病院などからの応援医の協力を得て診療を行っております。

## ・手術麻酔

当科が管理する手術件数は平成20年で2,300件程でしたが、以降件数が増加し続け昨年度は3,656件の手術を麻酔科で管理致しました。同年度の総手術件数はコロナ禍にも関わらず5,997件となりました。急増する手術件数に対応すべく平成29年の新病院移転時には手術室を1室増やし8室体制と致しましたがそれでも足りなくなり、ここ数年でさらに2室増設して現在は10室体制で運用しています。

立川病院の手術内容として、整形外科、産婦人科、消化器外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、眼科など心臓外科以外の手術はほぼすべて行われています。また従来の開胸・開腹手術から胸腔鏡・腹腔鏡手術の時代を経て、最近ではロボット支援下手術が婦人科・呼吸器外科・消化器外科・泌尿器科等で行われています（写真1）。

麻酔科の人員体制は、長らく常勤医3名の体制でしたが順次優秀な人材を確保し、令和5年4月からは常勤医9名となりました。このうち8名が麻酔科専門医ですので大学病院や同規模の病院と比べても遜色のない体制で診療を行っております（写真2）。

手術時の麻酔法としては全身麻酔以外にも硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔、そして最近では超音波診断装置を用いて末梢神経ブロックを行う症例が増加しています。代表的なものとしては、上肢の手術には腕神経叢ブロック、下肢の手術には大腿神経ブロックや坐骨神経ブロック、腹部の手術には腹直筋鞘ブロックや腹横筋膜面ブロックなどを行う機会が増えています。末梢神経ブロックが世界的に普及した背景には、超音波診断装置の進歩以外にも抗血小板薬や抗凝固薬を内服している患者さんが手術を受ける機会が増え、硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔が禁忌となる場合でも末梢神経ブロックは比較的体表に近い場所の穿刺なので施行可能となる症例が多いことなどがあげられます（写真3、4）。

手術を受ける患者さんのために麻酔科医のみならず各科医師や看護師、薬剤師、臨床工



写真1：ロボット支援下手術の様子（消化器外科手術）



写真2：麻酔科メンバーの顔ぶれ（一部）



写真3：エコー下神経ブロックの様子（左大腿神経ブロック）



写真4：大腿神経ブロック時のエコー画面（画面左側の黒い2つの丸が左大腿動静脈。画面右側から中央部に至る高輝度の線が神経ブロック針。ブロック針の上部に左大腿神経がある。）



写真5：手術室の仲間たち（手術室看護師、看護助手、臨床工学技士、清掃スタッフ、麻酔科医師など）

学技士、検査科、栄養科、事務部門など各部門が十分な連携とって対応するように努めています（写真5）。

### ・患者支援センター

令和5年12月から立川病院に患者支援センターが開設されました。同センターは患者さんの入院前から退院後の生活まで一貫した支援を行うために設立され、入院前から患者さんの抱える様々な問題に対応するために医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・薬剤師・管理栄養士・事務職員が連携して支援を行います。この一環として麻酔科医を同センターに派遣し、術前診察を同センターで入院前に行うことで手術時に起こりうる諸問題について事前に発見して対応させて頂きます（写真6）。



写真6：患者支援センター受付

## ・緩和医療

麻酔科医は当院の緩和医療チームに加わり、麻酔科医としての知見を生かしてがんを患う患者さんの苦痛を和らげるために貢献させていただきます。からだのつらさ、こころのつらさ、社会的な困りごと、スピリチュアルな苦痛といった全人的苦痛の緩和を目標としています。

## ・術後疼痛管理チーム

令和6年4月頃から術後疼痛管理チームを開始する予定です。術後疼痛管理チームは麻酔科医・看護師・薬剤師等でチームを構成し、手術後の疼痛や嘔気等の不快な症状を予防または早期に対応して症状緩和に努めさせていただきます。当院で手術を受ける患者さんには、手術内容によりPCA（Patient Control Analgesia：自己調節鎮痛法）ポンプを使用して患者さんご自身で鎮痛薬を投与出来るようにするなど術後の患者さんが痛みなどに苦しむことがないように可能な限り配慮させていただきます。

## 医師紹介

- 福積 みどり** （副院長・日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔科指導医・厚生労働省麻酔科標榜医・緩和ケア研修会受講終了）
- 羽鳥 英樹** （部長・日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔科指導医・厚生労働省麻酔科標榜医・日本ペインクリニック学会専門医・日本集中治療学会専門医・緩和ケア研修会受講終了）
- 寺門 瞳** （医長・日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔科指導医・厚生労働省麻酔科標榜医・緩和ケア研修会受講終了）
- 乾 龍男** （医員・日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔科指導医・厚生労働省麻酔科標榜医）
- 渡邊 美子** （医員・日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔科指導医・厚生労働省麻酔科標榜医）
- 中西 美沙** （医員・日本麻酔科学会専門医・厚生労働省麻酔科標榜医・緩和ケア研修会受講終了）
- 大橋 祐介** （医員・日本専門医機構麻酔科専門医・日本麻酔科学会麻酔科指導医・厚生労働省麻酔科標榜医・日本緩和医療学会認定医・緩和ケア研修会受講終了）
- 白 駿永** （医員・日本専門医機構麻酔科専門医・厚生労働省麻酔科標榜医・緩和ケア研修会受講終了）
- 木村 明穂** （医員・日本麻酔科学会認定医・厚生労働省麻酔科標榜医）





# 立川病院市民公開講座 下肢静脈瘤セミナーが開催されました。

地域医療連携センター

令和6年2月10日（土）に立川病院市民公開講座 下肢静脈瘤セミナーを開催致しました。

今回は、参加された方々向けに、下肢静脈瘤無料相談会を設け、参加者の相談を受けさせていただきました。



セミナー風景



無料相談会

## 速報！ 今年の懇話会について ～11月19日開催決定！！～

今年の懇話会開催について、場所と日時が決定しましたので、お知らせいたします。昨年以上に多くの来賓者をお招きし、更に皆様にお喜びいただける会となるよう準備を進めてまいります。詳細はまた改めてお知らせいたします。今年の懇話会も、是非ご期待ください！！

### 第24回立川病院地域医療連携懇話会

日時 令和6年11月19日（火）19時00分開始予定

場所 ホテルエミシア東京立川 JR立川駅徒歩 2分

立川病院地域医療連携センター 042-524-2438（直通）





ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで  
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和6年3月1日（年6回）  
発行者：立川病院地域医療連携センター  
編集者：片井均、風間友子

**国家公務員共済組合連合会 立川病院**

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

**地域医療連携センター**

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160